

第4学年 総合的な学習の時間 指導案

長浜市立永原小学校 教諭 長谷川 要治

1. 単元名 災害から身を守ろう ～わたしたちにできること～

2. 単元の目標

- 永原地区の自然災害の現状、減災・防災について理解を深め、これから自分たちでできる減災・防災について、自ら課題を見つけ、多面的・総合的に考えることができるようにする。
(知識・技能)
- 現在および将来に直面する災害に対して、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
(思考・判断・表現)
- 友達と協力して課題の解決を図ろうとしたり、伝え合ったりできるようにする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「永原地域にどのような災害が起きる可能性があるか」、「行政や自治会はどのような災害対策をしているか」、「災害時に自分たちはどのように行動すればよいか」について取り上げる。「永原地域にどのような災害が起きる可能性があるか」を調べることで、災害が身近なものであることを実感することができる。また、行政の災害対策、消防団をはじめとする自治会の活動に触れさせることで、防災対策を、行政にしてもらえばかりのものではなく、自分たち自身の問題であることがより理解できると考える。さらに、防災に関連して、自分たちにどのようなことができるかを考えさせることによって、防災意識を高めたい。また、総合的な学習として、社会科で調べたこと、考えたことを地域や校内に発信し、防災に対する意識を広める学習にも取り組みたい。

(2) 児童観

本校では、避難訓練が年4回ある。本学級の児童も、1年生の時から避難訓練を経験しており、身近に災害が起こる可能性があることは理解している。だが、実際に避難をしたり、被害に見舞われたりすることは経験していないので、自分自身がどのように行動すればよいか、状況によっては分からないことも考えられる。また、地震や大雨などの災害があっても、「大丈夫だろう。」「たいしたことないだろう。」と、影響を過小評価してしまうことによって避難が遅れたり、避難しなかったりする可能性もある。

本単元を学習することにより、防災について身近なこととして考えるとともに、自分自身がどのように行動するとよいのか、地域全体のことを視野に入れて行動できる力を養いたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず避難訓練や、大雨が降った時の経験、今まで学習から、自分の身近にどのような災害が起こる可能性があるかを考えさせる。今までの経験から、児童が災害

についてどの程度自分自身の問題としてとらえているかをとらえる。その上で、ハザードマップや永原地区と原子力発電所との距離がわかる地図等の資料に触れさせ、災害が起こる可能性は現実にあるのだという認識をもたせる。

次に、実際に災害が起こった時に備えて、どのような対策がされているかを調べさせる。まず学校の敷地内を回る。4年生児童は、消防についての学習をしており、校内に防火設備があることは理解している。今回の学習ではさらに、防災倉庫の存在や、避難所としての学校の役割についても気づかせたい。

そして、自分たちの住む地区を回り、消防団の設備や消火栓、避難所の案内看板など、防災に関する施設や設備を見るとともに、自治会の方から地域の防災の仕組みについて話を聞く。そうすることで地域の防災に関し、住人が担う役割についてとらえさせる。

身近な場所の防災の仕組みについて学んだあとは、長浜市全体の防災に関して調べる。長浜市では、防災のために普段どのような活動をしているのかを、市のホームページや広報を調べさせる。そして、長浜市役所西浅井支所の方からも、災害時の体制、防災に関する普段の市役所の仕事等について話を聞く。また、警察や消防、自治会の消防団との連携についても聞く。防災活動に関して、行政や自治会等、さまざまな人たちが関わっていることを調べさせる。防災の仕組みや設備が円滑に運用できるよう、訓練が行われていることも理解させたい。

最後に、調べたことを自分たちの行動につなげるため、児童に「わたしたちには何ができるか」を考えさせる。自分たちが地域の一員としてできることや、自分の命を自分で守るのだという意識をもたせるようにする。また、調べたことを他の学年や地域に発信し、地域全体の防災・減災意識を高めることができれば、学習の意義も高まるであろうと考える。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性・・・地域の人々の中には、さまざまな人々がいるにもかかわらず、年齢や健康状態によって、身を守る方法が限られてしまうということ。

公平性・・・自分や自分の家族のみの安全を考えるだけでは、恵まれた環境や健康状態にある人のみが安心して暮らせる地域となってしまうということ。

責任性・・・これからの地域は、自分自身や家族のことだけを考えるのではなく、地域全体のことを考え、お互いが支え合う仕組みをつくっていく必要があること。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

クリティカルシンキング：物事を問い直し、新たな方法を見出す力、代替案の思考力

現在の永原地域や長浜市全体の防災体制を調べ、そのよさや課題を把握し、自分は何ができるのかを考える。

長期的思考力：データに基づき、先のことを考える力

ハザードマップを見て、永原地域にはどのような災害が起こる可能性があるかをとらえ、対策を調べたり考えたりする。

共働的問題解決力：他の人と協力して最後まで取り組む力

自分で考えるだけでなく、他の人の意見を聞き、うまく取り入れながら課題を解決していこうとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

相互性 自分や自分の家族が困っているとき、近所の人や地域全体で助け合えるようにすることで、安心して暮らせるまちをつくっていくことができる。

公平性 どの人も、災害が起こった時には等しく適切な支援を受けることができるようにする。

責任性 行政や地域が、自分の役割を果たすことで地域住民の安全を確保することができる。

・達成が期待される SDGs

【目標 1 1】 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①長浜市が取り組んでいる減災・防災対策を知る。 ②自然災害が起きたとき、自らの安全を守るための行動が分かる。 ③自然災害に対し、どのような備えをしたらよいか分かる。 ④調べたことを発表し合い、減災・防災に対する理解を深める。	①自分たちでできる減災・防災について、自ら課題を見付け、課題解決に向けて学習計画を立てている。 ②資料を用い、課題に関係する情報を収集している。 ③資料から得た情報を整理・分析して、まとめている。 ④減災・防災についてまとめたことを、校内に発信している。	①課題解決に向け、仲間と協力しながら、進んで学習に取り組んでいる。 ②住んでいる地域を調べ、減災・防災に対する関心を高め、様々な機関を活用しながら調べようとしている。 ③仲間と協力して、効果的な表現方法や発信の仕方を考えようとしている。

5. 単元の指導計画 (全 1 5 時間)

次	主な学習活動	学習への支援 (・)	評価 (△) 備考
1	1. これまでの避難訓練や社会科、理科の学習から、永原地域ではどのような災害が起こる可	・これまでの避難訓練で、どのような災害を想定して避難したかを考えさせる。	△イ① (思判表) △ウ①

	<p>能性があるか、知っていることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨の時に、川から水があふれる。 ・大雨が降ると、山が崩れる。 ・地震が起こると山が崩れる。 ・火事が起こる。 ・原子力災害が起こるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨や台風の時の大浦川や八田部川の様子、近くの道路が土砂崩れて通行止めになったことを思い出させる。 ・地図を見せ、福井県の原子力発電所との位置関係を実感させる。 	(主体的)
2	<p>2. 学校の中で災害対策のための設備を探す。</p> <p>3. 長浜市の資料から行政の防災対策を調べる。</p> <p>4. 永原地域の災害対策を調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内を実際に回り、防災倉庫や避難所の看板を見せる。 ・ハザードマップや市のパンフレット、ホームページを見せる。 ・学校近辺をまわり、避難所の看板や消防団の施設、消火栓などを見学する。 	<p>△ア① (知・技)</p> <p>△イ② (思判表)</p> <p>△ウ② (主体的)</p>
3	<p>5. 西浅井支所の職員の方から、災害対策の設備を生かすために、どのような活動が行われているのかを聞く。</p> <p>6. 地域の方から、自治会の消防団の話や防災対策の話聞く。</p> <p>7. 災害時の行政や自治会(消防団)の動きと課題をまとめる。</p> <p>8. 災害から身を守るため、自分たちにできることは何かを防災新聞にまとめ、学校全体に広めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西浅井支所に行き、職員の方に、災害時に行政はどのような対応をするのかを聞く。 ・近隣の自治会の方、民生委員から、災害時に自治体としてどのような対応をするか、消防団の動きはどうかを聞く。 ・災害時の行政や自治会の動きについて聞いたことをノートにまとめる。 ・災害時に、自分たちはどのような行動をすればよいか、さまざまな場面を想定して具体的に考える。 ・新聞等にまとめ、全校に発信する。 	<p>△ア② (知・技)</p> <p>△ア③ (知・技)</p> <p>△ア④ (知・技)</p> <p>△イ① (思判表)</p> <p>△イ③ (思判表)</p> <p>△イ④ (思判表)</p> <p>△ウ① (主体的)</p> <p>△ウ② (主体的)</p> <p>△ウ③ (主体的)</p>